

■カラー■

4 **野田幸手園 新春お年玉大会**

32 **石井旭舟 へらぶな浪漫街道**

《第六十二回》千葉、茨城県 横利根川(よこつねがわ)

38 **《新連載》小池忠教 激釣テクニカルアドバイス**

《第2回》清遊湖で厳寒期の底釣り ゲスト・福富大祐さん

44 **《新連載》生井澤聡 挑戦者魂**

《第3回》千葉県・北部手賀沼 挑戦。真冬の巨へら狩り!!

50 **《新連載》中澤岳 攻めの美学**

《第2回》椎の木湖 超低活性の大型を、「抜きセット」で攻めまくる。

56 **早川浩雄「鉄壁・早川スタイル」**

《第8回》真冬の戸面原ダム、バラケ&グルテンの底釣り

58 **関東へら鮒研究会 創立50周年記念式典**

★AREA REPORT

61 **狭山へら鮒センター(埼玉)**

本誌・伊藤洋一 木場(石川県)、横武グリーク公園と新堀群(佐賀県) 山本一朗、河口正伸

134 **《新連載》竹竿の似合う釣り場**

《第2回》野田幸手園 後藤誠 前田誠志

137 **岡田清 Deep Side Angle**

《Vol.48》[真冬の西グル底釣り] 富里乃壇

143 **《新連載》杉山達也 ULTLA SPLASH**

《第2回》筑波湖 深場の段底

148 **《新連載》小林恭之 ノルマでGO!!**

《第3回》鬼東沼・バラグルで大型乱舞か?!

152 **《新連載》天野正由 緑萌ゆる釣り場を巡る**

《第3回》緑の日溜まりで初釣り 狭山HC

156 **谷養魚場へら池 新春もちつき大会**

157 **友部湯崎湖 新春初釣り大会**

158 **ダイワへらスタッフ「本源師」実釣会**

193 **《新連載》棚網久 全開MAX**

《第3回》田貫湖で全開134枚! これぞ全開MAX!!

200 **北川穂積 西の交友録**

《第二十六回》ゲスト:秋山一水 釣り場:大内ダム(香川県)

205 **釣りの味**

《第13回》和風ラーメン屋 [空] 味玉しようゆラーメン

206 **釣果予想クイズ**

《今月のレディ》松崎麻央さん 上尾園

208 **フィッシングレディ**

《今月のレディ》松崎麻央さん 上尾園

66 **《新連載》特別企画 ウキ作り試行錯誤**

《第三章》楽しいウキ作り その1

74 **へら鮒釣り 超基本講座**

《第37回》Q&A編

80 **鬼東沼 新春釣り大会**

81 **逆井へら鮒センター新春底釣り大会**

86 **ガチンコ道場**

《第28回》メンバー底釣り修行!!

97 **江成公隆のトーナメント、復活への道。**

《Vol.69》底釣りゼミ2008

102 **水辺のプラネタリウム 吉本亜士**

《今月の星空》「鳥獣戯画」

106 **最狂へら戦士養成所「鮒の穴」 漢タカハシ**

《新春特別対談 後編》ゲスト:プラボー川上氏

STAFF

- 発行人 根本百合子
- 編集長 田中里史
- 編集部 大場勝良 諸富一秋 伊藤小百合 伊藤洋一
- へら鮒NET 根本大作 八十田昌広
- 企画 <オフィス・えび> 藤原 肇

110 **《新連載》へら鮒Cafe 西田美明**

《Vol.3》元気で帰って来い! はやぶさ号

114 **《新連載》永久釣りバカ宣言。**

《第3回》「カラッソとは?」 斉藤心也

116 **水と戯れ、風と遊ぶ ホワイト**

《第14回》結局...

118 **野田幸手園新聞**

161 **ワクワク管理釣り場情報**

170 **小売店情報**

175 **★へら鮒BOX**

里ちゃんのイケイケ編集長雑記

187 **第三回農林水産大臣杯争奪へら鮒釣大会**

ボイス 日研広報部長・遠藤亮己

188 **コラム「日研だより」**

コラム「上村流」 上村恭生

189 **コラム「紀州 想いの竹」**

中巻伸行

191 **広告索引**

編集後記

192 **編集後記**

14 **読者還元、選りすぐりの超豪華賞品大放し!!**

新春特大プレゼント

22 **特集 斉藤心也が隼人大池で魅せる、「1投1枚」の驚異の世界。**

必釣段底

160 **新連載 あ釣りの人の「日常」を紹介します...。第1回目は岡田清さんです!**

釣り人のお仕事

- 釣り場割引クーポン券 p.163~
- 野田幸手園 椎の木湖 清遊湖 谷和原大沼 上尾園
 - F.A吉羽園 谷養魚場 将監 柳生F.P 筑波白水湖
 - 泉壇 逆井HC 友部湯崎湖 三和新池 川越FC
 - 鳥羽井沼 大上へら池 霧の沼 小川つり堀園 府中HC
 - 清川つくりFC 千代田湖・舟宿 千和 相模湖・釣舟 五宝亭
 - 相模湖・釣舟 天狗岩 吉森HC 甲南へらの池 当麻池
 - 水藻FC 朝日池 釣り堀八十八 谷中国 浜野HC

※田辺哲男【MYへら道】は誌面の都合によりお休みさせていただきます。

この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆の トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka
業界初 Web連載企画！ (URL) <http://hearyokohamotourminet>

〈Vol.69〉

底釣りゼミ2008

出ました。今月号は写真なし！
そして、このタイトルと、文章量…。
好例のお仕事ネタ、ナリーズネタから入り、
そして、暴走を始めたエナリの筆…。
何やら、嫌な予感がしますね～。

by 里ちゃん

2008、
発進。

やっぱり、というか今年も、気付いたら公式な締め切り日はとうに過ぎてしまっていて、新年最初の原稿から「泣きの延長」突入となった。もっとも、ここで言う公式な締め切りとは1月25日(里ちゃん註：本来は10日です)で、月末に出る本としてはもともと異例の設定であり、さらに泣きの延長期限とは、印刷所へ最終入稿の朝というところでもない話である。編集する時間がほとんど取れないことになるわけで、原稿をいじられたくない時には、故意に入稿を遅らせるという作戦はアリだが、僕の場合はそんな戦略的な入稿遅延はほとんど(里ちゃん註：ゼロだろ！)なく、本気でスリル満点である。だいたい、僕と里ちゃんの場合、最近では取材という名目で釣り場へ同行することもほとんどなく、なんとなく出かけた釣りが記事になるだけなので、「じゃあ、締め切りはいつですすよ」という話がそもそもない(年末は別よ)。結果として取材となる釣りに同行していたとしても、里ちゃんは隣で夢中で竿を振っているだけなので、帰る道でする話は原稿についてはなく、ただの釣りバカ同士のいわゆる釣り談義に終始することが多い。とはいえ、当然ながら本作りのスケジュールは存在するので、いいかげんな傾合いを見計らって、「やっていますかあ〜?」と、連絡が来る。ここで僕が、「そんな出来や」なんて言うものなら、里ちゃんが予想外の展開に拍子抜けしてしまうのだ。

「印刷所へ持っていくのはいつ?」
と、聞いてあげるのが大人のマナーというものである。

今回の締め切りについては、年明けの早い

段階で、別件で喋った時に確認していた。僕はお約束どおり、

「印刷所へ持って行くのはいい。」

…と聞いたが、公式な締め切り日を先に言ってきたあたり、そのタイミングではさすがの里ちゃんにもリアリティが伝わらなかったようだ。新生ナリーズ発進がテーマになるのは見えていたので、原稿のタイトルはすでに決まっていた。書くこともぼんやりとは頭にあつた。そんな僕に、「今回は早い」と思ったに違いないが、アマイ。何の連絡もせず今日はまだ26日。ビビっているに違いない。しかしそれは、僕自身もなのだ。今年も先が思いやられるスタートとなった。

どんな仕事でも、年明けというのは比較的ヒマな時期だと思う。「年末だから、みんな忙しそうにしてるゾ」なんていうプレッシャーを勝手に感じ、必要以上の仕事を年末こなししてしまうからではないだろうか。年末年始の休みで何もかも止まってしまうため、それまでに少ない営業日で「通常」の業務量をこなそうとすれば日々のスケジュールに無理が生じてくるというのなら、話はわかる。しかし、メーカーならラインは止まるかもしれないが、サービス業なら年末年始も開いているのはハナツから分かっていること。年末の物流業界の忙しさを見れば、間違いなく大量の需要があることはわかるが、それが年末年始の需要のためだけでなく、過剰在庫として年明けも残ることは、デパートの投げ売りセールで明らかだ。

年明けにすることがなくなってしまうほどに、自らを追い込んでしまう勤勉な日本人。高度経済成長時代じゃあるまいし、イマドキの若者（ああオレもオヤジだなあ）を見てみると、にわかには信じられないが、DNAは受け継いでいるのかもしれない。

社員達がサービス残業も休日出勤もこなし

て乗り切った年末のおかげでグツとヒマになった正月を、黙って見ている経営者はいない。コストカットに走り出す。1月の売り上げは年末に先取りしているだけだと捉える苦もない。平月よりはるかに多かった筈のサービス残業を顧みる筈もないから、本来の前倒し分だけでなくプラスアルファの利益も出ているということになる。やっぱり「年末は忙しい」ことにしないと儲けが出ないのだ。勤勉さが災いするとは、使われる身として何ともやり切れない話だが、権利主張をとるか、会社の存続をとるのかは、難しい選択である。

僕の店も、笑っちゃうほどヒマになった。クソ忙しい年末と比較すればヒマと感ずるのには当たり前だが、10月11月と比較しても明らかにヒマだ。もちろん例年この時期の数字としては当たり前なのだが、自分も一労働者であり、ただの歯車であるという自覚はありながら、やはり店長としてはそれなりの策を講じないわけにはいかない。部下にただ楽をさせるわけにはいかないのだ。

年度末は労働時間の管理も大詰め。どんどん休ませたり、半日出勤のシフトを組んだりして、日々時間をコントロールしていく。しかし、外まわりの仕事である以上、完璧に計算どおりにはいかないから、日々の計画修正が必要になる。部下はヒマでも、くだらない仕事でテンパりする僕だ。

でもやっぱり、年末というプレッシャーから解放された気分は格別爽快で、夜中は原稿そっちのけでナリーズのホームページ作成に熱中するなど、かなり精神的にゆとりがある正月ではあった。前回の原稿が、年末進行によつてえらく早い締め切り設定だったことも、今日までのゆつたり気分が大きく影響したのには間違いない。が、現実には目の前には休みを遊び惚けた小学生が、最終日に味わう気分はまさにコシだらう…。

新生ナリーズ、発信。

発進ではなく、発信。半分ギャグで、半分マジ。今年も言いたいこと言つて、周りからギャンギャン言われる覚悟がある、ような、ないような…そんな意味だ（なんのこっちゃ）。

第一回例会をすでに終えた今、スタート前よりも身が引き締まる思いでいる。今まで僕は多くのクラブに所属してきた。大きく有名な会もあれば、全く無名とは言わないけれど、こぢんまりとした仲良し系のクラブもあった。仲間同士でクラブを作った経験もあるし、潰した苦い経験もある。それら全ての経験を、新生ナリーズには注ぎ込みたい。クラブ運営の事務的な部分は他の役員に任せられることになるが、会のあり方を常に自問自答し、既存の枠組みにとらわれない新しいスタイルも提唱してナリーズが存続出来るよう、最大限の努力をするつもりである。つまり、

「実務はやらないけど口だけは出すゾ♡」って感じ？

まあ冗談はともかく、クラブをひとつ潰してきた経験もあるような人間が、自らの名前を冠したクラブに会長として収まるってんだから、とんでもない話です。これでプレッシャーを感じないヤツはいません。会を作る喜びも苦しみも、今度こそ、会員全員と共に分かち合いたいと誓う江成でした。

第一回ナリーズ例会は武蔵の池で行われ、萩野・太田・カトビ（以上、敬称略）&前田与佳さん（フルネーム+さん付け♡）というスペシャルゲスト4名を含むたくさんのゲストの方々と、新入会員も合わせ、参加者は20名を超えてしまった。これは全く予想外のこと、座席の確保に焦ったが、池の好意で

何とかあった。釣果の方はイマイチだったが、当て番で前田さんの隣を引き当てた僕は、「一日中鼻の下伸ばしっぱなし。たとえ「ヒトノモノ」とは分かっているけど、僕は「ひ」。女性と話をするのはやっぱり楽しい。本能には逆らえないのだ。ただ、あまりにもはしゃぎ過ぎたエロオヤジにうんざりしてしまっただんじやないかという心配があった僕にとって、例会終了後の前田さんからの電撃入会表明は、驚きでしかなかった。ていつか、

「オレに惚れるなよ…」

会員全員にぶっ飛ばされそうな非現実的な話は置いて、昨年のトーナメントシーンにおいて、「女性初のメジャー全国出場・しかもシモノとタイワのダブル！」と、ある意味チャンピオンより目立ちまくり、話題を独り占めにした感のある前田さんのナリーズ正式加入は、正直言って、

「…ホントにいいんですか？」

という感覚だった。もちろんこちらは大歓迎。でもなんでわざわざこんな悪名高いクラブに…。

今年もやっぱり、ナリーズからの発信ネタはてんこもりにありそうぞっせー！



「段差の」底釣りゼミ2005。

最初にお断りしておきたいのは、今までの段底特集を完全に否定するつもりはないし、間違っているとも思っていないということ。あくまでも表現方法や言葉の足りなさ(僕の主観)に対するコメントであり、僕一人の考え方であるという前提で、読み進めていただきたい。

冬になると、必ず取り上げられるのが底釣り。中でも「食い渋りに効果がある」とされる段差の底釣りは、読者に最も多いであろうサンダーアングラーに配慮してか、バランスの底釣りよりページ数が多く組まれている印象がある。

食い渋り対策としての段底、すなわち「高地合ではない」という前提の段底であれば、落下中に食わせる速攻系ではなく、クワセは底についているという前提で書かれた記事が大半で、「段底は底釣りのバリエーション」と言い切った北城理論信者の僕としては、とても好感が持てた。しかし、北城氏が認識する「バランスの底になくて、段底にある唯一のもの」は、「高い位置からバラケを撒く(広範囲)寄せ効果」である。寄せることで少ないなりにも競争心が増し、口を使い出す可能性はあるという意味で、「食い渋り対策」と捉えるのは間違いだとは言わない。ただ、宙のセットでならイメージしやすいと思うが、「粉ボケさんお腹いっぱい」という状態も確実に存在するわけで、食い渋り対策として、寄せるのが必ずしも正解ではない以上、北城氏的に厳密に言えば「食い渋り対策」ではなく、「寄せ不足解消の一手」でしかない…なんて書くと、セット的解釈主体で段底を捉えている釣り人達から反論が上がる。ここ数年の「ハリス段

差が大きくなる」傾向は、宙のセットでは典型的な対激シブパターンだ。ただしこれだけでは、高い位置から撒く寄せ効果を否定するには弱い。そこで出てくるのは、縮まったバラケや小バラケを組み合わせるケースの存在だ。バラケをシメておきながら、寄せ効果もへったくれもないだろう??と突っ込まれる。

セットのエッセンス。

セット釣りにおいてはバラケの拡散範囲を立体的にイメージする必要があり、さらにクワセとへらの位置関係(距離感)をも加味した総合的な戦略が要求される。年々複雑さを増すそれは、苦手だけれど僕も大好きなパズルだ。

一般的に、バラケ調整とハリスワークが、パズルを解くのに用いられるメインである。ただし、近年のセット釣りで見逃すことの出来ないのは、各パーツ(クワセ・ハリス・バラケを構成する全ての粒子)を時系列で追うイメージだ。ハリスの長さは静止状態でのイメージでは距離感でしかないが、実際に水中で落下していくことを考えると、長ければ長いほどナジみ切るまでの滞空時間は長いことになり、結果として、距離を主眼に伸ばしたり詰めたりしたつものハリスワークは、落下スピードのコントロールにも繋がってくる。意識しだすと、水の抵抗とハリスの細さも気になってくる。落下スピードというと、エサとハリスの、大きさ・重さでコントロールするというイメージが昔から一般的だが、ハリスワークでもいくらかはコントロール出来るのである。

セット釣りにおけるバラケとクワセのシンクロについて、現在ほど深く追求する釣り人が多くなかった時代でも、「落下スピード」と

いう用語は、釣り人の意識にすでにあった。共エサ全盛の時代でも、追いがイマイチの時は当然あるわけで、段差をいじることで二つのエサがナジみ切るまでの時間差を作り、注目させるエサ(でもつい見送りがち)・食わせるエサ(と、思ったらもう一個落ちてきた!)というように、(あくまでも釣り人側の勝手な想像でしかないが)役割をタイミングによって分担させる必要があったからである。

少し話が膨らみ過ぎたが、ハリスワークの持つ効果についておさらいが終わったところで、段底における「ハリス段差」について考えてみる。ここ数年は、ハリス段差が大きくなる傾向にあるが、「ハリスを伸ばさないと釣れない」渋い距離の拡大で釣れた!!やっぱり段底はセット釣り」という解釈をしている人が多いと思う。僕はこれを完全に否定する気はないし、そうかもしれないとも思っている。水中はあくまでも想像の世界だから、イメージも人それぞれでいいのだ。ただし、どうしてもいゆるセット釣りの組み立てで考える釣りではないと感じてしまう僕の根拠も、「下バリが底についている状態で食わせる段底限定」でいいので書かせてもらいたい。

まず、長い下ハリスについて。底についている「前提」のへらにアピールするのに、長いハリスで「追わせる」必要はない苦悩の、段底に限らずここ数年はバランスの完全底釣りにおいても、ハリスが長い傾向にある。これは実は「底釣りゼミ2005」でも取り上げたテーマ。当時も引用したが、長ハリスを用いた共エサの底釣りへの、岡田清氏のコメントは以下である。

「長いハリスで上からエサを追わせて、というふうにも捉えられがちなんだけど、俺の中のイメージでは全く違う。確かに、ポロポロとは上から追ってくるものもあるんだろうけど、俺がイメージするのは、ゆっくりと落ちてき

新作!!

慎重にテストを繰り返した底釣り専用タイプ。
杉山作初の美しいブラックボディで登場!

【底釣りスタイル】

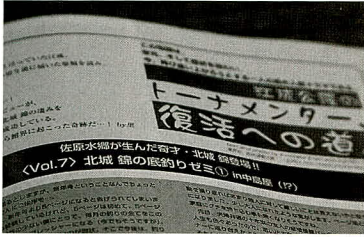
繊細な「底」を完全表現する専用タイプ。

- ボディは羽根2枚合わせ5.5mm径。精悍な極薄ブラック塗装仕上げを採用
- ダイシン製ホウトップ(内径1mmパイプ)採用。軽量かつ視認性大幅UP!
- サイズ:一番(T110cm B9cm カーボン足4.3cm)~六番(T17.5cm B16.5cm カーボン足4.7cm)
- ワンサイズごとにバランスを突き詰めた設計で、スムーズなナジミと理想的な返しを実現!
- 定価1本7,350円(税込)

取り扱い店(五十音順)

埼玉・越谷 かわせみ(☎048-969-5067) 茨城・下妻 こやの釣具(☎0296-44-1619) 東京・渋谷 サンスイ川釣り館(☎03-3499-5025)
埼玉・入間 へらの三水(☎042-964-2093) 栃木・益子 フィッシングハウスほその(☎0285-72-2215) 神奈川・川崎 謝仙人(☎044-287-7470)
東京・吉祥寺 丸勝(☎0422-22-8923) 東京・青梅 吉川釣具店(☎0428-22-2467)

杉山作



2003.1月号～7月号に渡って本コーナーに掲載された、「底釣りゼミ」。佐原の名手、北城 錦氏の底釣り理論を、江成がコッテリと文章化。底釣りの理論の核心を突く記述は、多くの読者の度肝を抜いた。今でこそ本誌を含めた各誌各記事で当たり前のように「テンション」という言葉が使われているが、「底釣りゼミ」以降のような気もする。誰もが頭ではほんやりと感じ、実践し、疑問に思っていたことが、鮮明な文章となって目の前に現れた、底釣り記事の決定版（読んでない人はバックナンバー買うべし♡）

たエサに対し、地べたのへらが「下から反応する」という感覚。」(2004年12月号)「フサイドアングル」より)

いくら名手のコメントとはいえ、あくまでも「感覚」であるため、岡田氏自身も僕も、「上から追わせる」要素を完全否定するつもりはない。しかし、「段差幅がセツトほど大きくない共エサの(完全)底釣りであっても、長いハリスが有効」という「事実」は、段底においての長い下ハリスを、「へらのいる位置が遠巻きになったために伸びた」という「セツト的なバラケからの距離感だけで説明する」のに「待った」をかけることになるのだ。もちろん「待った」をかけるだけでなく、セツト的解釈以外の視点で長ハリスのメリットをもう一度示し直せなければ、セツト的解釈疑問視派としては弱い。

いちだんと高まる寄せ効果。

下ハリスが長くなるということは、結果としてバラケと底面の距離も長くなるということになる。バラケの位置が高ければ高いほど、粒子の落下時間も拡散範囲も広範になる。反応が上から下からかはこの際どうでもいいが、へらへのアピール力が増大するのは間違いない。

初回のゼミで北城氏は、「あまりやり過ぎると寄り過ぎて収拾がつかなくなる」と警告していたが、90cmや1mもある長いハリスでも、やり過ぎではないケースが増えてきたということである。つまり、いちだんと口を使う個体数が減っているのだ。

細かい話になるが、北城氏は、段底は完全底釣りのイチバリエーションと認識しているから、氏の発言「寄り過ぎて収拾がつかない」を、「バラケが上にありすぎればウワズル」と認識されている。バラケが上にあることで段底が成立しないなら、それは底釣り地合ではないのだ。ただ、底面にはそれ以上深い位置は存在しないし、寄って競争心が高まった状態が平面的な広がりとは考えにくいから、底面より上に押し上げられるへらも当然いる。しかしこれは、目的より上のタナに寄ってしまったて目的のタナが空洞化してしまうウワズリとは意味が違うはずだ。ただし、水中は見えない。ウキからの情報に頼った想像ではない。だから「ウワズリたへらを下に向かせて食わせたのか」、「底にいたかったけど、弾き飛ばされて上にいたへらが追って元サヤで食ったのか」も、誰にも分からない。

おそらく北城氏と云えど、底から1mという高さは想定していなかったのではないかと思う。1mも上層であれば、ウワズリという

レベルを超えて、完全に別の層があるかもしれない。となると、底のへらを狙うものの、「ターゲットではない」宙のへらに邪魔をされることになるから、ターゲットの底へらはウワズらないと仮定しても、いわゆる「ウワズリ対策」的な補助操作は必要になってくる。これを、「1mもあれば仕方ない」と、片付けてしまえばアウトさで簡単に許してくれる読者ならいいが、水中は見えないことから、「底と、底から例えば30cmくらいが別層という可能性は否定出来ない」と、突っ込まれるかもしれない。1mと99cmは「たったの1cm差」。であるならば、1mに「なら」ある別層が、99cmにあっても不思議ではない。99cmにある別層が、98cmだったとしても不思議ではない。98cmにある…というアウトさが、70回積もれば、底から30cmになってしまいうからだ。30cmでの宙底二層…ウワズリとは呼ばない？ 呼べない？

実は初回のゼミで結論は出ている。北城氏はこう言っているのだ。「底にあるエサを拾いたいへらを相手にする釣り」が底釣り」

先ほど僕は、「底についている「前提」のへら」という言葉を使ったが、へらのもともとの居場所宙のへらだ底のへらだと分けるのはナンセンスということになってくる。1mという具体的な数字を想定していなくても、そう簡単に論破されないのが北城理論の凄みである。

縮まったバラケや小さなバラケを組み合わせるケースにおいての「寄せ効果」に疑問の声はあるだろうと前々項で書いた。なぜ感覚が薄いのかは次項以降でほとんど明らかになっていくが、自分にとっていわゆる宙釣りのなセツト感覚が薄い段底では、シメたバラケで深く入ればなしというのはイマイチ理解出来ない。これは後述する(次号以降にて)。

小さなバラケについては、縮まり過ぎてさえいなければ、高い位置から撒くことで、「粉ボケを防ぎつつ広範囲に散布」という効果は期待出来る。セツト的なエッセンスを取り入れるため、粒子量に頼らない寄せパワーが得られるため、やはり長いハリスは寄せ効果に寄与すると結論付けたい(もっと言うと、水流がなければの話だが、「高い小バラケ・低い大バラケ」のような相関関係も見えるような気も…。これは、今回考察送りテーマ@時間切れ)。ただし、北城理論に則って、いいへらをライバルより寄せるための方法としての段底を選択したのなら、ハリスをどんどん伸ばしたとしても当然バラケの打ち合いになるだろうし、小バラケはあんまり使い時がないような気もする。

底釣りの証明。

「段底はトントンが基本」だと言われている。ズラし過ぎればアタリが出ないのだ、と。

段底もバラケの底もどちらも底釣りだから、底釣りゼミ読者なら、「底釣りは、仕掛け全体の角度(テンション)をコントロールする釣り」という認識がある筈だ。ズラシにはテンションをかければ済む話だとすぐ分かります。段底でもたまたまズラシをガンガン入れていることだろう。落下中や着底直後でハリスに角度がついているタイミングでアタる釣りならいいが、基本的に段底にそういう地合はなく、じっくり待っての釣りである。ならば、クワセのついたハリスはオモリの真下方向へだいが引かれている状態で待つことになる筈だ。底面に散乱した粒子を拾いながらハリスの付いたエサに近付いた時、本当に垂直なトントンならば、100%に近い確率でハリスに触れる。今まさに食わんとする瞬間の逆立

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

- 1.ぐりへの鮒会
- 2.ぐりへの鮒会
- 3.ぐりへら鮒会

- ・番付をインターネットで公開できます(無料)

お問い合わせご注文はお早めに!

取扱店: 柴舟 03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに

転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
2回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店:

柴舟(東京都江戸川区)

03-3613-2727

佐伯釣具店(神奈川県川崎市)

044-911-3722

SANSUI川づり館(東京都渋谷区)

03-3499-5025

フィッシング中原(神奈川県川崎市)

044-711-8266

鮒仙人(神奈川県川崎市)

044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27
あとりえぐり

http://www.office27.com
E-mail:info@office27.com

ちまでもいかず、クワセの直近の粒子の吸い
あおりだけで触れてしまつたのだ。これでは食
つてくれない。アタリが伝わるテンションは
じゅうぶんにあるのは間違いないが、肝心の
アタリそのものをもらいにくい。ハリスに角
度さえつていれば、穂先側からのへらの侵
入には無意味でも、沖からの接近にはハリス
が見破られる危険性が低い。この理屈が、同
じ底にあるエサを拾わせる釣りである段底と
バランスの底で、共通でないのはおかしい話
だ。ところが、「段底はトントン」という強迫
観念と、「テンションの理解なしにズラし、動
きは増えるけどスレばかり」という経験から、
大きなズラシをためらわせる。ズラさないで
いれば、スレアタリすら出ない。そこで登場
するのがセツト的視点だ。

「距離が足りてないんじゃないか?」
ハリスを伸ばして見事にアタリをもらえる
ようになれば、
「やっぱりタナはトントンで平気だった。決め
手は段差。遠巻きだったんだね」
という結論になるのは難しくない想像だ。
しかし、常識を疑ってかかるのがナリズで
ある。

厚く寄せやすいと言われるが、捲いた粒子で
も同じではないのか。へらが寄せれば、アオリ
と拾い食いでそうそう残ってはいない筈だが、
とりあえず粒子はそれ以上下がらないわけだ。
「遠巻きでアタらないのでハリスを伸ばしまじ
た」→「ホラ、アタりました」→「質問です。
バラケが底に近すぎた時、へらは泥の中にい
たんですか?」→「横方向で伸ばしたハリス
分だけ遠巻きにいました」→「そのへらは底
でエサを食うと思いますか?」→「ハイ?」
→「バラケが上に上がるとへらが底に降りて
来るというイメージでよろしいんですか?」
→「いえ、底釣りですから、さっきの間違
えました。宙の横方向ではなく、底の遠巻き
にいたと訂正します」→「バラケが高くなれ
ば、もっと広範に粒子が飛びます。クワセの
付いた下バリへ誘導するのはもっと難しくな
ると思いませんか?」→「粒子は吸いあおら
れて、そんなに残っていませんから変わら
せん」→「では…結局下バリの周りの粒子量
は何も変わらないのに遠巻きだったと言っ
てですね? あ、クワセからの遠巻きだったの
かな? いくら伸ばしても届きませんからそ
れはあり得ないですね(笑)。粒子に反応して
寄る以上、バラケが嫌いということはないで

しょうから、塊は見たくないのかな? それ
とも、オモリに警戒?(しつこ過ぎ)」
リアルでしょ。実話です。
そう、へらの位置はハリスを伸ばす前と伸
ばした後で、全く変わっていないんです。底
面でしかないんですよ。
宙で言うところの遠巻きならば、伸ばして
遠いところに届けるといイメージで納得出
来るんですが、段底の場合は、こちらから遠
ざけるとい感覚なんです。これがいつも引
つ掛かってました。結局彼は距離感で説明す
るのを諦め、「ゆっくり落下に反応」派一本に
転向してしまいました。

伸びたハリスの「ゆっくり落下に反応」は、
先ほど岡田氏の記事を引用した際に書いたよ
うに、僕は全く否定していません。しかし、そ
れだけで片付けるワケにもいけません。なぜな
ら、「トントンのままアタリ出す」メカを説明
出来ないからだ。ゆっくり落下して反応した
結果、みんな落ち込みでアタッてしまつたら、
それは宙のセツト的解釈で何の問題もない
(ていうかソレ宙だし)し、着底直後にアタる
ならいいが、結局待っての釣りになる以上、
仕掛け全体の角度(テンション)をコントロ
ールする必要はある筈なのだ。

もうダメ! 時間切れ! っていうか途中
から悪ノリしちゃったんで、字数もとくに
オーバー! 早々と決まっていたタイトルま
で差し替えちゃいました。
続きは次号で!

「復活っていうテーマはどうなつとんじや
い!」というごもつともなご意見はとりあえ
ず横においといて…、いや、ここまでのコ
ツテリは数年ぶりじゃなからうか?」
里の手許には、すでに次回分を賄えるだけ
の原稿は届いている。本人いわく「勢いで書
いただけ」に、書き換えは必至だが…。
あんたコレ、ホントに二日で書いたの?」
by 里ちゃん

へら鮒釣りの楽しさを追究し続ける

No.507
Mar.2008

3

Monthly fishing magazine herabuna

特集

必釣段底

「1投1枚」の驚異の世界。
斉藤心也が魅せる。

新春特大プレゼント

読者還元、盛りすくりの超豪華賞品大放送!!

新連載

あの釣り人の「日常」を紹介します…。

釣り人のお仕事



昭和41年5月4日第3種郵便物認可
平成20年3月1日発行
第43巻第3号（毎月1回1日発行）

2008
3

必釣段底
「1投1枚」の驚異の世界

斉藤心也

定価 1000円

本体九五二円

(株)へら鮎社



厳寒期に挑む、くわせとは。

へら鮎の活性が低い真冬は、くわせエサの使い分けも重要。水中での漂い方や、ハリスの張り方を変えながら、イメージどおりのアタリを出していくことこそ、釣果への近道となるからだ。食い渋った状況に幅広く対応できるよう、マルキューは豊富なラインアップを揃えました。

軽さで誘うために。



ハリに付けるだけの粒状くわせエサ。
●カ玉(ちからだま) 40g
●カ玉大粒 70g

ハリスを張らせて、アタらせるために。



軽く、軟らかく、吸い込みやすい。理想的な仕上がりを追求できる、わらびウドン。
●特選わらび 彩 分包3袋 28g×3



強いネバリと、抜群のハリ持ちを実現。ハリ抜けしにくい、タピオカウドンの素。
●魚信(あたり) 分包4袋 25g×4

丸マルキュー株式会社
〒363-8509 埼玉県桶川市赤塚2-4

お問い合わせ 本社・桶川工場:048-728-0909 大阪支店:072-824-0909
四国営業所:0877-44-0909 九州営業所:0942-82-0909
ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

釣り場でエサに困ったら
「マルキュー」ホームページ
<http://www.marukyu.com/i>

マルキューホームページ内の「へら鮎天国」では、新鮮な釣果情報を掲載中。あなたのお気に入りの釣り場の情報が、見つかるかも。
<http://www.marukyu.com/> マルキューへら鮎メールマガジンも、お申込はこちらから。

釣れるヒント満載!!
へら鮎天国

